

学校だより

Vol. 75

2011
WINTER

平成23年12月発行 鳥羽商船高等専門学校
広報・公開委員会「広報誌専門部会」
三重県鳥羽市池上町1番1号 TEL 0599-25-8013



- 校長式辞
- 就職・進学
- 国際交流
- 卒業生からのメッセージ
- 学生活動の紹介
- 教員紹介
- 海外出張報告
- 人事異動
- 学校通信





平成23年度卒業式・商船学科・専攻科（海事システム学）

校長 藤田 稔彦

本日ここに多数のご来賓ならびに保護者の皆様ご出席のもと、平成23年度商船学科卒業式・海事システム学専攻修了式を挙行できますことは、本校教職員・在校生一同にとり、この上ない喜びであります。

商船学科を卒業された皆さんは、本校キャンパスや鳥羽丸における4年6ヶ月の席上課程の後、1年間の大型練習船実習という貴重な経験を、一層逞しくなりました。また、専攻科を修了された皆さんは、この実習経験を活かし、さらに2年間、研究等に熱心に取り組んで来られました。このような経験は、普通の高校や大学では得られないもので、皆さんが意識するしないに拘わらず、今後の長い人生において必ずやプラスになるはずで、皆さんの今日に至るまでの努力を称えますとともに、皆さんを物心両面から支えて来られた保護者・ご家族の皆様にも、心からお祝いを申し上げます。

本校は、明治14年創設の鳥羽商船を前身とし、今年130周年を迎えた長い歴史と伝統のある学校です。本校の卒業生は、国内外で、さまざまな分野で活躍しています。今後、皆さんは本校

で学んだことを誇りとし、自信をもって力強く人生を歩んで下さい。

本校は三つの大きな教育目標を掲げています。その一つは「ジェントルマンシップ、レイディシップ豊かな人間であること」です。私が初めて就職した会社の入社式で、社長が「誰が正しいかではなく、何が正しいかを考えて判断し、実行しなさい」と言われました。これは簡単なようで実は非常に難しいことです。現実には職務上の上下関係があり、ライバル関係もできてきます。また、人間ですから、価値観の違いや好き嫌い、意地や損得もあるでしょう。そういういろいろなことで判断を誤ることは少なくないと思います。私は、ジェントルマン、レイディとは、常に何が正しいかを冷静に見極めて行動できる人、しかも常に人を思い遣る温かい心を持っている人のことだと思っています。

本校の教育目標の二つ目は「創造性豊かな技術者となること」です。高専はどこも「ものづくり」教育に重点を置いています。この「ものづくり」とは、英語で言うところの「ものづくり」

う。最もぴったりの言葉はクリエイションだと思います。新しいものを生み出すということ、創造そのものです。皆さんが学んできた航海学や機関学は、非常に幅の広い総合科学、総合工学です。これをベースに、より深く・より広く知識と経験を積んで、新しい「ものづくり」に挑戦していつて下さい。これは「ものづくり」を生業とする海運会社においても要求されることです。

教育目標の三つ目は「国際性豊かな社会人となること」です。最近はそのボーダーレス化、経済のグローバル化が進み、外資系企業はもちろん日本企業でも、多数の外国人社員を抱える会社では、社内の公用語は英語という会社が増えていきます。

外航船は、今や乗組員のほとんどが外国人で、日本語が通じない世界です。外国人ともコミュニケーションがとれること、そういう能力が求められています。しかし、日本の歴史や文化も勉強して下さい。国際人として不可欠なのは、英語よりも中国、日本人としてのアイデンティティをしっかりと持って、日本のことを

よく理解して自らの言葉で説明できることだと思っています。

以上の三つが皆さんのこれまでの教育目標でした。卒業後は皆さんがそれぞれ自分の目標を立て、その目標達成に向けて頑張ってください。目標は高いほどよい。ただし、行動は迷うことなく細心に一步一步進めるのがよいと言われています。

卒業生・修了生の皆さんのこれらの長い人生航路の安全と活躍を心よりお祈りして式辞と致します。



平成23年度商船学科航海コースの

進路について



商船学科航海コース主任

石田 邦光

商船学科航海コースの平成23年9月卒業生数は15名で、就職が11名、進学が4名となりました。求人数および求人数は昨年とほぼ同じで、海運会社からの求人は、ある程度水準を維持しています。就職先の内訳は次の通りです。外航海運では、商船三井に1名、川崎汽船に1名、NSユニテッド海運に1名、乾汽船に1名、飯野海運に1名、旭タンカーに1名が採用されました。近海・内航海運では、商船三井フェリーに1名、津軽海峡フェリーに1名、コスモ海運に1名が採用されました。また、深海底の資源探査船を運航する海洋技術開発に1名が採用されました。外航日本人船員確保・育成スキームにも1名が合格しました。これは、国も協力している事業で、一定の報酬を受けながらキャリア形成を図り、海運会社への就職を目指すものです。進学は、推薦による大学編入学で神戸大学海事科学部に1名、東京海洋大学海洋工学部に1名が合格しました。また、本校の海事システム専攻に2名が入学しました。

日本郵船及び商船三井では、新3級制度という仕組みを使って、一流大学の卒業生を船舶職員として自社養成しています。この採用数に応じて、船舶職員を養成する大学からの採用数が減り、その補いを受けて高専生の採用数が減少しているのが現実です。こうした会社も、能力があれば当然採用してくれるわけですが、かなり高いレベルの能力が要求されるようになってきました。一つには、2級だけでなく1級海技士筆記試験合格であり、もう一つは英語力です。外航海運会社が求めるTOEICのスコアは500点といわれています。大学生と肩を並べて競い合うには、成績や資格と共に、社会で生き抜くための自己研鑽も当然必要ですが、TOEICの高スコアが求められている現実を、学生諸君は肝に銘じて、日々の努力を怠らないようにしてください。

商船学科・機関コースの

就職・進学状況



商船学科機関コース主任

伊藤 友仁

平成23年9月の機関コース卒業生は12名で、進路の内訳は11名が就職、1名が大学進学です。就職者のうち、海上就職が6名（外航船社2名、内航船社等4名）、陸上就職が5名でした。

近年、機関コース卒業生の海上就職が増加していますが、本校で目標とすべき、外航船員になることができた学生は多くありません。今後ぜひ、外航船員または内航でも比較的大手にチャレンジしてほしいものです。そのためには、5年生の4月の時点で上級の海技士（筆記）合格の実績が必要です。つまり、国家試験に関しては4年時の努力がそのまま就職につながるということです。

一方、陸上企業への就職は、大手企業が減り、大手グループの関連会社が多くなりました。近年の厳しい不況の為、一部の陸上企業は採用人数を削減してきました。本校に求人をしていただく中規模の企業には、経営基盤が比較的安定しているところが多く、今後も採用が期待できます。特に、陸上企業を希望する場合は、勤務地を限定することなく、世界中どこでも仕事する覚悟が必要です。

海上、陸上とも就職のため、在学中にすべきことはいろいろあります。まず、低学年から授業をまじめに受け、基礎学力を身につけることです。これは、採用試験（面接試験、学力試験、SPI、適正検査、作文：等々）で必ず役立ちます。高学年では、日頃から新聞やニュースを見て、教養を高める努力が必要です。また、英語のTOEICスコアは高専一般の目標値（400以上）を目指すべきです。その他、礼儀や言葉づかいを含むコミュニケーションの基本を日頃から育んでおく必要があります。勿論、健康で明るく元気であることが最も大切ということは言うまでもありません。

電子機械工学科の進学・就職状況



電子機械工学科長

桐山 和彦

平成23年度の電子機械工学科の学生（現5年生31名）の進路は、進学4名、就職27名（うち女子学生4名）で、平成23年9月2日にて全て決定致しました。進学については、豊橋技術科学大学2名、本校専攻科2名となりました。就職については、東芝、中部電力、パナソニック電工等の大企業に15名、安川エンジニアリング、マツダE&T、ノリタケ伊勢電子等の中堅企業に6名、カンセツ、エフ・ピー・ツール等の中小企業に6名となっており、依然大企業指向の強い結果となりました。今回、学生の応募した企業は全部で41社で、1人の学生が応募した企業は、最大で4社、平均1.8社でした。また、1人当りの内々定した企業数（合格比率）は、最大で2、平均0.7となりました。合格比率1.0以上の学生（すなわち第1志望合格者）は13名で、第1志望合格率は45%となっています。

本年度の採用のポイントには、まず人物重視の姿勢が強かったことです。特に重要視された点は、応募した企業に対して関心・興味を持っていること、そして対人関係、相互理解および良好なコミュニケーションです。

企業が希望する分野は機械系出身者が圧倒的に多く、機械系6、電気系3、その他1の割合でした。本年度の就職活動において、まだまだ苦戦を強いられたことを踏まえ、来年度（平成24年度）からは4年生の後期から実質的に就職活動を開始することとしました。既に現4年生は希望企業の研究および選定作業に入っています。来年度の目標は、全員が第1希望の進路先に進むことです。この目標に向けて教職員一丸となって対処していきたいと思っています。

制御情報工学科の就職・進学状況

制御情報工学科長

榎本 隆二



リーマンショック後の昨年度を境に、就職の内定動向は以前のパターンと大きく変化しています。以前は、6月末には就職希望者全員の内々定がほぼ決まりましたが、それが10月末までへと間延びしています。11月からは現4年生に対する求人票が届き始めますから、事実上、10月末で学校推薦による就職指導は終了します。私個人としては、これはかつて就職氷河期とよばれたような一過性の現象ではなく、日本の就職戦線が構造的に変化したものと捉えています。

以前のように、2社目、3社目で採用を見送られた学生を直ちに受け入れてくれた会社も、今では存在しません。また、昨年度あたりから、ゆとり教育世代が大卒者として本格的に世に出始めて、学生間の学力・能力差の程度を企業の採用担当者が実体験することとなりました。多くの人事担当者が最近の学生はしっかりチェックしないと怖くて採用できない、と嘆くようになってきました。準備不足の学生は適性検査や性格検査で落とされて、面接試験にまで到達しません。また、それを越えても、人事面接、担当部署面接、役員面接、最終面接と3・4回の面接試験を行って、多重にチェックする企業が多くなっています。

さて、今年度は4月当初、就職希望者23名でスタートしましたが、10月下旬までに9割の学生の就職が内定しました。また、本校専攻科への進学者は8名でした。大学編入学は豊橋技科大へ1名、大阪大学へ1名が決まっています。豊橋技科大は今回の入試から、大学院修士課程までの入学金と授業料を全て免除し、3年編入学直後から研究室に配属させる特別推薦という枠を設けましたが、前者はこの枠での入学です。

系統的なキャリア教育を充実させるべく、学科としての取り組みを本格的に開始しています。手始めに就職・進学に関する情報を入場制限付きのホームページに集約しています。現在、4年生と5年生が入場可能ですが、来春までには制御情報工学科の全学年に解放する予定です。ご期待下さい。

専攻科の就職・進学状況

〜スペシャリストになるために〜

専攻科長

坂牧 孝規



本年度の専攻科の就職活動は、民間企業への就職を希望していた学生については大変良好で、生産システム工学専攻は7月、海事システム工学専攻は9月に内定率が100%となっています。大学院への進学は、例年に比べて少ないですが、生産システム工学専攻から豊橋技術科学大学大学院に1名合格しています。

専攻科における就職支援は、第一に就職活動に対する考え方、第二に学生の適性と企業・職種のマッチングを中心に指導してきました。学生は、就職活動を通じて大きく成長します。最初、多くの学生は、就職活動を自分が企業を選ぶという視点で捉えています。このため、学生が最初に書いてくる企業への提出書類は、単なる希望や自己主張であり、採用する側の視点、例えば、企業が自分を採用することによって得られるメリットについて示されているものはほとんどありません。就職支援は、まず、企業人として何が評価されるのかを、学生に学んでもらうことから始まります。

現在の国内外の経済状況は、就職活動が一層厳しくなることを示唆しています。専攻科では、平成25年度入社者の就職支援を11月から始めています。これは、残りの学生生活で身に付けるべきことを、早く自覚してほしいという願いからです。コモディティ(commodity)化は産業の常である一方で、個人がコモディティ化しないためには、スペシャリストになる必要があります。これは「ほかのものでは代替えのきかない唯一のものになる」ということです。技量は試行錯誤しながら身に付けていくものです。失敗は挑戦の結果であり、教科書には書かれていない経験的な知識を獲得した証でもあります。試行錯誤しながら身に付けた「考える能力」は、生きる力であり、新しい技術を身につけ、様々な問題を解決する原動力になります。挑戦したことを、採用面接で、また入社後に話ができるように、残された時間、精一杯頑張ってください。

技術職員からのメッセージ

総務課施設係施設主任

(制御情報工学科平成6年度卒業)



竹内 晃輔

今回、本校の卒業生で職員という事で、記事を書くことになった施設係の竹内です。

正直、私は学生時代から成績は悪く、担任の先生からは竹槍で落とされるくらい超低空飛行だと冗談を言われる状態でした。素行もどちらかというと良い方ではなく、先生方にご迷惑をかけていました。その私が本校に就職して、設備を大切に扱わない学生に説教(過去の自分は棚に上げて)をしていると、昔の私を知っている先生方から、「あの竹内が言うかあ」「因果応報か、壊す側だった竹内が今度は壊れた物の修理をする側になったかあ」と言われ苦笑いです(汗)。

民間の仕事を経験し、母校に帰って仕事をしています。学生達が後輩でもあるためか、「この後輩たちのためにも少しでも学校を良くしたい」と思い、日々奮闘中(空回りも多く、上司・同僚・先生方には扱い難いと思われるでしようが)です。

施設係として、そして卒業生として、在校生のみなさんにお願いします。建物や設備を大切にしてください。日々、後輩たちが使うものですので、できるだけ良い状態でバトンを回せるようにお願いします。



国際交流推進室から

国際交流推進室長

石田 邦光

一昨年に、シンガポール・ポリテクニク（Singapore Polytechnic）（以下SPと略す）のシンガポール・マリタイム・アカデミー（Singapore Maritime Academy）（以下SMAと略す）との国際交流事業について、報告させていただきました。そこで今回は、これらを含めた現在実施している本校の国際交流事業展開について簡単に報告したいと思います。

MEL（Maritime Experiential Learning）CAMPについては、毎年、3回実施されており、年によって実施時期が少しずれることもあります。3、7、10月に行われています。シンガポール発着の巨大豪華客船スーパー・スター・ヴァーゴ（SuperStar Virgo）に乗船し、主に国際性を身に付けさせることが目的であり、参加者はシンガポール、オランダ、韓国の学校に在籍する学生で、国籍は様々です。

英語キャンプは、夏季休暇に約2週間、SPで行われます。英

語のコミュニケーション能力を養うのが本キャンプの目的ですが、現地法人企業の見学や観光など、短期間でも充実した内容となるように工夫されています。

KCC（University of Hawaii Kauai Community College）国際インターンシップは、2010年11月にKCCと5商船高専の国際交流協定を締結し、その中の一つの事業として実施されています。春季休暇中に約2週間実施されます。カウアイ島とハワイ島でホクレア号の航海で知られるポリネシアの伝統的な航海術を学び体験するとともに、KCCの学生とともに生活し異文化交流を図ります。また、本年11月には、国際交流会と銘打って、KCCにおいて5商船高専の教員とKCCの教員が情報交換会を開催し、今後の協定事業に向けて、活発な意見交換を行いました。

また、鈴鹿高専主催で、オハイオ州立大学の研修旅行が企画されましたが、残念ながら本校からの参加学生はありませんでした。

これまでの国際交流事業参加学生を表にまとめておきます。

学 年		3			4			5			専攻1	
学 科		商	電	制	商	電	制	商	電	制	海事	生産
MELクルーズ	男	5			7		2					
	女	1		3	1		2					
英語キャンプ	男				3		2			1	1	1
	女				1			1		3		1
国際インターンシップ	男	1			1							
	女	1			1							

英語キャンプに参加して

制御情報工学科4年 堀井 就斗



私はこの夏、シンガポールでの英語キャンプに参加しました。英語キャンプは2週間という短い期間でしたが、その中での経験の一つ一つがとても貴重なもので、非常に充実した2週間でした。

授業は基本的に学生参加型で、現地の教員が出した課題に対し学生間で相談し合い、答えを出すという形式です。歌を歌ったり、劇をしたりとユニークなものも多く、楽しみながら英語を学ぶことができました。放課後は門限までの自由時間が与えられ、グループに分かれ、シンガポールを観光しました。学生のみでの自由行動だったため、現地の方と話す機会が多く、戸惑ったことをよく覚えています。何度も現地の方と話すうちに気付いたことは、綺麗な英語でなくても良いので積極的に話すということです。

シンガポールは多民族国家であるため、私はこの2週間で様々な文化や考え方に触れることができました。そうしているうちに、私が今までに見てきたものがいかに狭いものであったかを実感しました。私が英語キャンプに参加していなかったら自分の視野の狭さに気付くことすらできずにいたことでしょう。

私は英語キャンプに参加して、日本ではできない貴重な体験をできたことが本当に嬉しく思います。英語キャンプでは本当にたくさんのことを経験でき、そしてその全てが必ず自分のためになると思います。少しでも興味のある方はぜひ参加してみてください。



MEL CAMPに参加して

制御情報工学科4年 小堀 もも



私は9月9日～16日の間、客船の乗船実習（MEL CAMP）でシンガポール、ベトナム、マレーシアへ行ってきました。船の中では主に船に関する授業はもちろん、自由なテーマでプレゼンテーションも行いました。グループディスカッションでは、キャプテンから「Don't be shy!（恥ずかしがらないで）」とアドバイスを受けましたが、初めのうちは、上手く会話をする事が出来ませんでした。でも諦めずに、簡単な英語で積極的にコミュニケーションをとろうと心がけた結果、キャンプの終盤には皆といろいろな話をする事が出来るようになりました。

旅の途中で、ベトナムとマレーシアに寄港しました。ベトナムではホーチミンを訪れたのですが、道路を埋め尽くす程のバイクが走っており、路上で裸足の大人や子どもが、日本語で物を売りに来たりしました。しかしデパートへ行くと高級ブランドの店が建ち並び、路上で商売をする人達は一人もいません。私はこれらの貧富の差を目の当たりにして、複雑な気持ちになりました。一方で、マレーシアではレダン島というリゾート地を訪れ、青く透き通った海に心が癒されました。

今回のMEL CAMPを終えて私が感じたことは、いかに英語が大切かということです。実際に会って英語で会話することで、異文化を体感することが出来、国籍が違おうともお互いを理解し合えるのです。このMEL CAMPにまだ参加されていない人達は、是非参加していただきたいと思います。



卒業生からのメッセージ

商船学科航海コース 平成13年度卒業

森 団平

私が学校を卒業したのは平成13年です。卒業して、今勤めている日本郵船に入社して丸10年が経ったことになります。学校で過ごした約2倍の時間となりますが、あつという間の出来事であったように思います。この10年を振り返ると、いろんなことがありました。

仕事では一等航海士を拝命し、陸上勤務を経験し、プライベートでは、結婚し東京で暮らすようになりました。年齢も30歳を超えました。学生時代には正直考えることもしなかった世代です。学生時代に考えることもしなかったということ言えば、部下を持つ世代に入ったということでしょうか。

一等航海士の仕事は、大きく分けて2種類となります。一つは甲板部の長としての乗組員の管理・指導です。もう一つは、荷役責任者としての荷役及び貨物管理です。これらの仕事についての責任を一等航海士は負うこととなります。私自身が30代になったといっても指導する部下の中には年齢も経験も深い年長の部下もいます。それらの人にはもちろん敬意を払い、アドバイスを求めながら仕事を進めていくのですが、当然こちらが的外れの指示をしたりすれば、だんだん信用を失うこととなります。私は出来るだけ乗組員と一緒に作業の時間を過ごしたりして、彼らの考え方や意見を吸い上げるように心がけていました。それでもうまくいかない事はあるもので、私の甘い考えから、ある仕事がかどらず、しかし当日中に終わらせねば船の運航に支障が出る為、夕食の時間を過ぎても部下に働くようにお願いをしなければならぬ時があり、ずいぶん彼らの不評を買ったこともありました。

一等航海士になり、経験も増え、仕事の幅も出来ることも多くなりましたが、それでもしばしば失敗し、自身身の至らなさに反省することはできません。しかし、ここまで仕事をやめずに一つの会社に勤め続けて来られた事は自分にとってはありがたいことだと思っています。そして、それを支えてくれたのは、学生時代の友人

だと思っています。学生時代になんでも話し合った仲間がいてくれたおかげで、その後10年経ってもお互い連絡を取り合い、時には愚痴をこぼしあい、悩んだら相談して助け合う事ができるのではないかと思います。

皆様、勉強をすることが「学生の身分」であることはもちろんですが、部活や遊びの友達等、今の仲間と過ごす時間を大切に、これから一生の付き合い出来る人達との関係を育んで行ってください。

絆

機関科 昭和41年度卒業

山下 文徳

今般の大震災で亡くなられた方々に哀悼の意を、被災された方々に衷心よりお見舞い申し上げます。

今国内では「頑張ろう日本」「絆」という言葉が叫ばれております。これは被災地の復興のみに向けられただけでなく、急速に落ち込む日本経済や低下する国家の威信に「不撓不屈」の精神で立ち向うとする日本人の連帯意識の表れだと小生は思っております。さて私は昭和37年春、諸君と同じように志も高く商船学校に入り、在校生の恫喝にも似た励ましや洗礼を受けしごかれ、涙の一年を学友さんや同期に支えられ、そして5年間の学業を終え晴れて郵船に入社した頃を今も懐しく思い出します。当時は海外渡航も稀な時代に私達は高級船員を目指したのとは無論のこと「船乗りは無冠の外交官である」と教官や先輩に教示され、又私達もあたり前の事として矜持していました。又「生徒規範」は私の座右の銘として会社の執務室に掲示しておりました。興味を示す来客に自慢たらしめ説明をしたものです。このように鍛錬の場であった商船学校は今も私の誇りです。若干の問題点もあつたようですが、先輩後輩同期の絆は全寮制の中で培われたと確信しております。皆さんも卒業して船にのれば、かつての怖い上級生がきつと優しく迎えてくれるでしょう。又海運界や港湾関係には多くの同窓がおり何事にも手を貸してくれ、きつと力強く感ずることと思います。私は現在海運とは別の物流業界に身を置いており

ますが、同窓とは稀に事業絡みの話に発展する事があります。又広島在住の私はヨットを趣味でやっておりますが、この界限にも他校のOBが多くおり、先輩、先輩と慕って来ておりますが、彼らにとっても「鳥羽」というのは何となく特別な響きをもっているようで、ちよつぱり優越感を覚えることもあります。諸君も卒業の暁には、「鳥羽商船」ですと胸をはって答えられるように精進して下さい。そして親しみを込めて先輩に甘え、教えを乞い、年を経て後輩を育て、よき伝統を継承して下さい。君達若き航海士が船門で最初に迎える人が同窓パイロットかも、若き機関士の赴任を大歓迎してくれるのは同窓の機関長かも。私達のクラスは4年（最近3年）に一度、ほとんどの者が参加して鳥羽で、同期会をやっております。又年3〜4回は関東在住の者は東京で、関西組は神戸で飲み会をやっておりますが、話題では近年の在校生は挨拶ができていない、覇気が足りない等注文つける者もいるようです。私達は愛情をもって諸君を見ております。それでは同窓会でお会いできることを楽しみにしております。

電子機械工学科 平成11年度卒業

平賀 昭彦

在学中の皆さまはじめまして。平賀と申します。また、お世話になった教職員の方々に改めて感謝の気持ちをお伝えします。在学中はありがたございました。

私は電子機械工学科に入学し、様々なことを学びました。当時、勉強嫌いだつたので補欠からの入学で、事件も起こし無期停学の経験もあります。

それでも何とか、5年間で無事卒業し、IT系の会社に入社しました。半年の研修期間があり、電話応対や名刺交換といった基本的なことから専門分野まで幅広く学びました。

同じ「学ぶ」といっても学生時代と異なる点は、この期間も会社からは給料が支払われます。その時、先輩社員が「君達は会社から1億円借金していると思ってください」と仰いました。

Message



新人が会社に利益を生み始めるのは凡そ2年後と言われています。もちろんその期間も給料は支払われるわけですから、平たく言うとお荷物です。

それでもやっと3年目から仕事の進め方や、利益の生み出し方を習得し、私の場合、8年後の2008年に完済出来たつもりです。

その後、2009年に独立し、現在は小さい会社を経営しています。皆さんの中にも「将来は社長になりたい」と考えている方がいるかもしれませんが、経営者になると営業・事務・技術・体管理など全てのことを自分で行えないといけません。また、お客様に納めるシステムの期日を守るため、毎日がテスト期間のような気分になります。

皆さんの今の勉強はこういった社会に出てからのプレッシャーに打ち勝つ糧になると思います。成績の結果よりも今企業が求めているのはメンタルの強い人材です。難しいことでも途中で投げ出さず、一つでも良いので自分自身の好きなこと、強みになることを見つけてください。

今でも私は勉強嫌いです。でも、好きなことを仕事に出来ているので充実した毎日を過ごしています。興味ございましたら「フェーズエイト」と検索して連絡ください。就職活動のお役に立てるかもしれませんよ。

制御情報工学科 平成16年度卒業

ブイ・ミン・チュオン



平成17年春の卒業後、東工大の情報工学科で勉強しました。編入生は5名、私を除く4名は日本人でした。

大学を卒業するためには124単位が必要ですが、高専時代の単位は63単位しか認められませんでした。必須科目などはたくさん足りなかったため、最初の1学期は大変で多くの授業をとりました。夜は2時間しか寝られませんでした。1科目でも不合格になれば3年間の勉学を強いられ、奨学金がなくなる可能性があります。しかし、私はそれを乗り越えました。4年生になって、上野先生の研究室を選び、3次元配線問題というテーマで研究しました。

東工大の学生の皆さんは優秀で、誰でも頭がよく勉強する科目も難しいです。真面目に研究していて、いろいろなアイデアがありました。先生方は関連会社と連携し

ており、研究課題は実際の製品作りに近いものでした。東工大では多くの国からの留学生がいて国際的な環境です。東京は家賃が高いので、留学生たちはシャワー室がない部屋を借ります。それで家賃が少し安くなります。自分もそうでしたが、手作りでシャワー室を作りました。それは一番面白い思い出です。

社会人になっても学校の近くのそのアパートに住んでいました。とてもびくびくしたのですが、入社した会社にも何人かの鳥羽商船の同級生や先輩がいました。6ヶ月後、ベトナムの子会社に出張しました。ベトナムの子会社は管理者がいなくて、社員も6人しかいませんでした。上司の信頼を得て、この子会社を自分に任せてくれました。最初は大変でした。ベトナムの社員は言うことを聞かないし、開発スキルや「報連相」のスキルもなかったのです。それで入社試験から技術トレーニング、ソフトスキルのトレーニング資料を作って、社員を教育しました。福利制度や昇給などよい体制を作りました。4年後には、子会社の社員数は80人になり、自分が社長として、すべて会社のことを決定しました。しかし、2011年に自分の家族の都合で退職を決めました。現在、ベトナムで会社を作り、まだ小さいですが、オフショア開発や携帯のアプリを開発しています。現在、ホーチミンでローンなしで自分で買った家に住んでいます。子供にも恵まれ、とても幸せです。

夢は会社を大きくすることで、パートナーと連携して株式会社にして、日本のプロジェクトだけではなく、ベトナム国内の案件も受注して、たくさんの人々に仕事を与えたいです。それで、皆さんも幸せになると思っています。自分の宗教は仏教ですので、お寺に行つて慈善活動をしています。自分のためだけではなく、社会のみなさんのために、健康で仕事できる我々が頑張らなければなりません。そして、小さいことでも愛情をこめて、障害がある人、貧乏な人たちを手伝っていきたいと思っています。

鳥羽商船高専は先生方が優しいし、熱心に教えていたでいて、とてもいい学校です。皆さん、エンジンオイルながら、勉強を頑張ってください。人生では自分の目標や夢を持たなければなりません。その夢を実現し、目標を達成するためにきちんと計画しなければなりません。それで、皆さんが夢を実現でき、目標を達成した幸せを他の人と共有できます。自分だけではなく、家族や周りの人々も喜んでくれるでしょう。

みんなの声

※テーマ※

卒業後の私の夢について

- 外国航路の船会社に就職し、航海士となる。その後40歳くらいでハワイ大学で伝統航海術を学びたい。(S4)
- 世界に通用する技術を開発し、社会に役立てたい。(M4)
- 大学に進学して技術に磨きをかけたいです。(I4)
- 将来の夢は人々の生活に役立つ製品を作ることです。(M5)
- 今までにないロボットを開発したい。(I5)
- クライアントに満足して頂ける技術者になりたい。(専攻科・生2)

※テーマ※

将来の夢実現に向けての私の取り組みは？

- 日頃の勉強及び資格をできるだけとるようにしているのが夢の実現への取り組みと思っています。(S4)
- いろんな職種に対応できるように資格を取るよう勉強しています。(M4)
- 学校の勉強だけでなく、広い知識を身につけるようにする。(I4)
- 時間とお金は等価であることを念頭に置いた生活(仕事のために生きるのではなく、生きるための仕事だということを忘れない)(M5)
- 新聞などを読んで、時事の話題に関心を持つようにしています。(I5)
- 社会に出て必要となるマナーや礼儀作法を勉強しています。(専攻科・生2)



学生生活活動の紹介

第46回全国商船高等専門学校漕艇大会5連覇!!



商船学科
航海コース4年
(カッター部前主将)
角田 真一

平成23年7月24日、第46回全国商船高等専門学校漕艇大会が鳥羽商船で行われました。私たちカッター部にとっては連覇がかかっており、不安やプレッシャーも決して小さなものではありませんでした。しかし母校開催ということで先輩や保護者の方々にもたくさん応援に来ていただき、優勝への気合は充分でした。

熱気に満ちたレースは、数多くの声援に支えられA・B共に連覇を飾ることができました。この鳥羽の海で、4年間の集大成である本大会を締めくくることができ、私は最高に幸せです。生涯誇れる、かけがえない経験をさせてもらったと思っています。

これからはOBという立場



に変わりますが、この先もずっと連覇が続けていってほしいとを願ひ応援しています。君たちならば、どんな相手にも負けずこの次も必ず優勝旗を持ち帰ってくれることを信じています。

最後に

になりましたが、教官、先輩、保護者の方々、そしてなにより楽しい時も辛い時も支え合いついてきてくれた仲間から感謝しています。本当にありがとうございました。

国民体育大会に出場して



商船学科
機関コース3年
廣瀬 大和

第66回国民体育大会「おいでませ山口国体」に、三重県のセーリング部門少年男子代表として参加させて頂きました。

国体の日程は9月28日から10月6日と、前後の移動日も含めて計8日間もありましたが、実際にレースのあった日程は3日間6レースと短く、その他の日程はヨットの計測(使用艇が規定を満たしているかを調べる事)や開始式などとても慌ただしかったのを記憶しています。忙しい日程の中、今まで出場してきたどの大会よりも大きい大会であるため、緊張しっぱなしでした。

実際のレースでは、A海面、B海面と2つのコースで分かれていて、それぞれ山から吹き下ろしの風や近くの川による潮の流れが複雑で、いろいろと考えながら乗らなければなりません。結果、苦戦の連続で悔いの残るレースとなってしまいました。ヨットレースの難しさや奥深さを改めて思い知らさ

今年、8月28日に千葉県習志野市(ならしのし)にある、



商船学科1年
橋本 海翔

全国大会出場、入賞!



れ、そしてチームワークの大切さを身をもって感じました。今後は、これからのヨット部のため後輩をしっかりと指導し、自分の持てる技術ができるだけ伝えてゆきたいと思っています。

最後に、今回支えてもらったパートナーの林直樹君、顧問の教官、両親にお礼を申し上げます。ありがとうございます。

特に、試合当日のアップを終えた待ち時間は、かなりのプレッシャーを感じました。

そんな中、臨んだ試合でしたが、結果は予選8位、決勝も8位で、入賞することができました。

私が全国大会に出場できたのは、水泳部の皆、そして教官の方の協力があったからこそだと感じています。

水泳は個人競技ですが、仲間と一緒に練習していくことが欠かせません。

私は全国大会に出場して、入賞することができたまで一緒に練習に参加してくれた、仲間、先輩、そして教官に感謝しています。

に出場できるように、今以上に頑張っていきたいと思っています。来年の東海地区の高等学校大会は、鳥羽商船のプールで開催されるので、新入部員が多く入ってくれることを期待し、地区の総合優勝を目標に頑張ります。



全国大会に出場して



商船学科
航海コース3年
小林 優介

2011年8月21日に東京の講道館で全国高等学校体育大会柔道の部に出場しました。私は全国大会に出ることが初めてなので全力で頑張りました。

た。柔道は最低60キロから最高階級は90キロ超級まであり、私はそのうちの最高級である90キロ超級に出させてもらいました。どの高専の選手も体が大きく私が一番小さいくらいに思いました。対戦相手は三重県名張市の近畿大学工業高等学校で、有名で団体は毎年優勝しており、個人戦でも上位の成績を挙げていて私は少し緊張してました。結局私は負けてしまったのですが、やはり上位の成績を挙げていた学校は練習量や技術力と経験が断然ちがいで、私ももっと練習を重ねていきながらもっと私の技術力や力が対戦相手に劣らないよう努力していきたいと思っています。しかし今回のこの全国大会は私にとってなかなか味わうことのできない経験でしたのでこの経験を生かしてまた全国大会に出られるよう頑張っていきたいと思っています。

全国大会出場報告



制御情報工学科2年
陸上競技部
岩橋 裕真

競歩を始めて二年目の今シーズン、幸運なことに三つの全国大会に出場する機会に恵まれました。

5月1日に石川県で行われた日本ユース陸上競技選手権大会では、初めての全国大会だったので緊張しましたが、周りに惑わされず、自分のペースを守り競技することを考えながら試合に臨み、二位に入ることができたので嬉しかったです。

8月3日〜7日に岩手県で行われたインターハイではとにかくベストを出すことを目標に試合に臨みました。予選の結果、決勝に残れる16人中15番目のタイムで決勝に残る事が出来ました。決勝ではとにかく勢いに乗り、挑戦していくことだけを考えて臨んだ結果、六位に入賞することができ、自分でも信じられない結果に驚きました。

この結果が、10月7日〜11日に山口県で行われた国体出場へとつながったのですが、自分の不注意で不甲斐ない結果（13

位）に終わってしまいました。とても悔しい思いをしたので、ここで出てきた課題をクリアして、来年もう一度挑戦するつもりでがんばります。

陸上部の皆や山田先生をはじめ、沢山の方にお世話になり、この一年は本当に学ぶことの多い年でした。支えて下さっている皆様に感謝し、これからがんばっていききたいと思います。

東海地区高専体育大会 団体優勝



商船学科
機関コース4年
吉村 美紅

2011年6月に愛知県名古屋市内にある東山公園テニスセンターにおいて、第49回東海地区国立高等専門学校体育大会（ソフトテニス競技大会）が行われました。

昨年の高専大会は、個人戦で3位に入賞することはできましたが、団体戦ではあまり良い結果を残すことができず、悔しい思いでいっぱいでした。その悔しさを胸に、私たちは1年間練習に励みました。大会当日は、応援に来てくださった本校

ソフトテニス部のOB・OGの方々、顧問の先生方、および男子部員からアドバイスや声援をいただき、また、お互いに声をかけ合いながら一致団結して試合に臨みました。その結果、団体戦では優勝し、また個人戦では3位に入賞するなど、団体戦、個人戦ともに良い結果を残すことができて、本当に嬉しかったです。

本大会を通じて、私たちは団結力の大切さ、みんなで喜びを分かち合うことの素晴らしさを実感しました。来年もまたみんなで喜びを分かち合えるよう、2連覇という目標を掲げて、日々練習に励んでいこうと思います。



AEDおよび避難所検索システムの作成



制御情報工学科4年
中嶋 亜美

本システムは、携帯端末を利用して最寄りのAED及び避難所を検索できるシステムです。ネットにつながる環境があれば、携帯電話上から即座に自分のいる場所とそこから近いAEDの設置場所、津波などが発生したときの避難場所が地図で示されます。私はこれまでに、このシステムの開発に携わってきました。

今回のシステムを開発する中で、沢山の新しい知識や意識に触れる機会が多くありました。今までにシステム開発の経験が無かった為、手順から何から全く分からない状態にあり最初は四苦八苦しましたが、周囲の方々のお力添えもあって最後まで貫徹する事ができました。

AEDと避難所、これらはどちら共に人の命に関わるものである為に、多大な重みや責任を感じましたし、また初めての事ばかりで上手くいかないケースが多く、挫折感を抱く事

も幾度となくありました。しかし、だからこそ真剣に向き合い取り組むべきだという意識が燃られ、結果的にはその意識が本システムを完成へと導いてくれたように思います。

私は今回でシステム開発の意義や難しさ、また人と関わらずして社会的意義のある物事を成し遂げる事は不可能である、という事を学びました。私がシステムを完成できたのは、契機や環境を提供して下さった教員方や、システム開発の基盤を築いて下さった先輩方のお陰です。その結果、地域社会に貢献する事が出来ました。開発に当たって手助けして下さいた方々への感謝を忘れず、今回の経験を今後に生かしていこうと思います。

海学祭を終えて



海学祭実行委員長
電子機械工学科4年
上野 裕士

年頭から計画していた第46回海学祭をようやく終える事ができました。今年は天候に恵まれ例年よりも非常に多くの方に来場していただき、海学祭実行委

員長として冥利に尽きます。今年の海学祭ですが準備から片づけまで、多くの方のお力添えをいただきました。教職員や学生会、海学祭実行委員にスポンサーの方々など非常に多くの人に携わっていただいたとても感謝しています。



さて、今年の海学祭は「例年とは違う海学祭」ということをコンセプトに計画し実行してきました。おそらく、海学祭始まって以来行われていない「そばの早食い」や「餅まき」といったイベントを企画しました。新たなイベントで多少の心配もありました。しかし、想像をはるかに超える大盛り上がりで、来場していただいた皆様と

我を忘れたように学生会役員も共に参加させていただいて、楽しませていただきました。今年の海学祭を通して学んだことは計画することの難しさでした。また、それと同時に海学祭という重要なプロジェクトを無事に終えたことで大きな達成感と喜びを学びました。この経験を今後の学生会活動に活かしていきたいです。

ロボコン



電子機械工学科5年
石引 麻央

今年のロボコンのテーマは、アメリカンフットボールをモデルとした「ロボ・ボール」というものでした。競技の流れとしては、ロボットがスタート位置から数メートル歩行し、キャッチゾーンと呼ばれるゾーンへ移動した後、チームメンバーが投げるアメフトボールを受け取り、さらに、十数メートル離れた場所にいるメンバーにパスをするというものでした。

同好会チームからは「TOB A して☆areadown」、卒業研究チームからは「トーパス・エジ

ソン」が出場しました。

ロボコン史上初、ロボットとチームメンバーとが協力をして競技を行うということもあり、いつも以上に細かな調整が必要でした。そのため、同好会チームと卒業研究チームとも最後の最後まで調整に追われ、出発前日は徹夜で作業を行いました。

結果は、両チームとも本来の動きを発揮することができずに、初戦敗退という残念なものとなりました。5年間ロボコンに参加してきた私にとって、最後の大会で良い結果を残すことができなかったことは、非常に悔しかったです。また、同好会チームには、今回の悔しさをバネに、上位を目指してもらいたいと思います。





教員紹介

国立高等専門学校機構理事長賞 (若手部門) を受賞しました



制御情報工学科

江崎 修央

平成22年度国立高等専門学校教員顕彰の理事長賞を受賞しました。教員顕彰とは、教員の相互評価、学生の評価および自己評価を基に各専攻で候補者を決定し、全国専攻の候補者の中から文部科学大臣賞と理事長賞を授与するものです。私は若手部門(40歳以下)の候補者として推薦していただき、ラッキーなことに理事長賞を受賞することができました。

候補者に選ばれたと「自己申告書(作文)」を作成します。

「情報工学教育を主とした実践的技術者の育成」という題目で、プログラミングコンテストへの取り組みや外部機関との共同研究を通じた学生指導や公開講座などを始めとする地域連携について執筆しました。



顕彰の授賞式は8月に鹿児島で開催された高専フォーラムにおいて挙行されました。若手部門の理事長賞受賞者4名の中には、大学の研究室の後輩、普段お世話になっているバレー部の顧問の先生が含まれており、顔見知りの多い授賞式となりました。また候補者の中には、私も努力され、多くの成果を挙げているにも関わらず惜しくも選外になった方もたくさんいらっしゃり、恐縮するばかりでした。

これまでの活動をまとめながら「自己申告書」を執筆していた時に、いずれの活動も学生指導というよりも、学生のみならず無理難題をお願いして、まさに「おんぶにだっこ」で何とかこなしていることばかりだと痛感させられました。また、学校の教職員の皆様にも常にさまざまな支援をいただいた結果が今回の受賞につながったと認識しております。この場を借りて学生、教職員、地域や外部機関の皆様にお礼を申し上げます。

今後とも皆様と力を合わせて色々なことにチャレンジしていきたいと思っておりますので、よろしくお付き合いください。



出張報告



制御情報工学科

榎本 隆二

平成22年3月から23年3月にかけて米国ニュージャージー州の州立大学ラトガースに国立高等専門学校機構の在外研究員として出張しました。研究拠点となっていた広大なキャンパスはニューブランズウィック市とピスカタウエイ市に跨っており、ここに5万人の学生が学んでいます。ニューブランズウィックはニューヨークのマンハッタンとフィラデルフィアの中間に位置します。ラトガースは18世紀半ばにクイーンズカレッジとして創設されて、キングズカレッジとしてのコロナピア大とは姉妹校でした。幕末には多くの日本人留学生が学んでいます。

私はピスカタウエイにある数学科のコンスタンチン教授とその研究グループのもとで位相幾何学を制御工学に応用するための基礎研究を行っていました。教授は位相幾何学の力学系理論の世界的権威であり、また、ラトガースの定性的生物学研究所の教授でもあります。その研究グループとプリンストン大やニューヨーク州立大の研究グループは定期的に集まって、位相幾何学を生物学や生態学、経済学や経営学に応用するための研究会を開催しています。また、研究グループの日常のミーティングでは、その研究にどんな意味があるのか、という議論

私はピスカタウエイにある

数学科のコンスタンチン教授と

その研究グループのもとで位相

幾何学を制御工学に応用する

を徹底的に繰り返しており、日本との研究風土の違いを実感しました。

隣接するプリンストン大の学費は年間700万円程度、一方、ラトガースは年間250万円程度で済むそうです。それでも、日本人から見ればかなり高額です。この国には社会人という概念はなく、大学には定員という概念も就職率という概念もありません。就職するためには最低2年間のインターンシップ経験が必要とされ、在学中の就活は御法度です。全く異なる国だと実感しました。さて、米国はリーマンショックの後遺症が続いており、滞在中の1年間に160近い銀行が破綻しました。私が使っていたワコピア銀行は有力銀行とすることで安心していましたが、2月に西海岸のウェルズファーク銀行に救済合併され、廃墟と化したフィラデルフィアのワコピア本社ビルを見て愕然とした記憶があります。なお、私がセントレアに帰ったのは、東日本大震災の前夜でした。



教職員の人事異動

【職員】

○退職

- 辻本 公子 (学生課学生生活係技術補佐員)
(平成23年5月31日付け)
- 中山 泰子 (学生課学生生活係長)
(平成23年6月30日付け)
- 野瀬 幸子 (総務課人事労務係事務補佐員)
(平成23年9月30日付け)

○採用

- ・総務課調達係調達主任 高吉 康弘
(独立行政法人森林総合研究所森林農地整備センター
美濃東部建設事業所設計第二係長)
(平成23年7月1日付け)
- ・学生課学生生活係技術補佐員 橋爪 さち代
(平成23年8月1日付け)

平成23年度専攻科（海事システム学専攻） 入学式を挙行

平成23年度専攻科（海事システム学専攻）入学式が去る10月3日（月）10時30分から本校専攻科棟マルチメディア教室において、挙行されました。藤田校長から励ましの式辞が述べられた後、入学生代表から、この専攻科での勉強を身につけ、その後の社会で即戦力として通用することができるよう何事も全力で取り組んでいきたいと挨拶がありました。



名古屋港開港祭に本校練習船「鳥羽丸」参加

11月5、6日、名古屋港の開港祭に寄港する航海訓練所練習帆船「日本丸」および「海王丸」にあわせて、本校練習船「鳥羽丸」も同祭に参加しました。両船はセイルドリル及び一般公開を実施し、「鳥羽丸」は本校PRを兼ねて一般公開および体験航海を実施しました。体験航海では、両船のセイルドリルを67名に洋上から航海訓練所の船長による解説を聞きながら見物していただきました。また、日本丸でのセイルドリルを日本丸の船上から見学する機会を与えていただき、本校商船学科を志望する中学生を中心に19名が参加しました。たくましい実習生の姿を見て、皆感動したようです。なお、鳥羽丸の一般公開は両日の午前中だけで、小雨まじりの天気でしたが766人の見学者に訪れていただきました。



本航海実施におきましては、名古屋港管理組合、名古屋みなと振興財団および航海訓練所の多大なご支援を賜りました。この場をお借りして心より感謝申し上げます。



公開講座・出前授業実施



本校は、小・中学生及び一般を対象に地域に根ざした高等教育・研究機関として公開講座・出前授業を開設しています。

公開講座 サイテクランドin鳥羽商船（小・中学生）

講座名	開催日
手作り太陽電池（中学生）	7月28日（木）～ 7月29日（金）
親子で電子工作（小学生親子）	7月31日（日）
Wiiリモコンで ゲームプログラミング（中学生）	8月1日（月）
（JST:サイエンスパートナーシップ採択事業） アマモ場から知る、伊勢湾の昔、今、未来 （中学生）	8月2日（火）
おもしろ理科実験（小・中学生）	8月4日（木）
小学生のための バレーボール教室（小学生・保護者）	10月13日（木） 10月20日（木） 10月27日（木）

出前授業 体験型学習（小・中学生）

授業名	開催日
鳥羽小学校「風に向かって走れ」	9月8日（木）
的矢中学校「ラジオを自分で作ってみよう」	9月30日（金）
船越小学校「オリジナルTシャツを作ろう」	10月4日（火）
加茂小学校「風に向かって走れ」	10月12日（水）
鳥羽小学校「光アートでキーホルダーを作ろう」	10月31日（月） 11月7日（月）
答志中学校「レゴ マインドストームNXTで ロボットを製作・コントロールしよう」	11月12日（土）

その他の講座

講座名	開催日
小・中教員向けExcel講座 ・鳥羽志摩教育研究会部会（エクセル鳥羽分協会） 「表の作成」「表計算（成績処理、会計処理）」	6月15日（水） 10月5日（水）
みえアカデミックセミナー2011 （三重県生涯学習センター） 「雪や氷の冷熱エネルギーを利用した冷房」 「変体仮名で中世のなぞを解く」	7月9日（土）

講座名	開催日
AED操作実技講習会 （池上町防災会 一般）	10月23日（日）
みんなでたのしく遊ぼう！ ロボット教室 （池上町育成会 小学生・保護者）	10月29日（土）

編集後記



『学校だより』第75号をお届けします。今回は、卒業後の進路、本校卒業生の実社会での活躍ぶりなどを中心に紙面を構成しました。学生がそれぞれ抱えている将来の夢、就職や進学の実情、日頃から心がけておくべきこと、そして将来の自分の姿は……。学生諸君にとって大いに役立つ事柄がこの『学校だより』に載っています。在校生の健闘している姿、教職員の活動成果と併せてお読みいただければと思います。なお、表紙に掲載した写真は、本校練習船「鳥羽丸」も参加した今年11月の名古屋港開港祭、9月の本校商船学科卒業式と11月の海学祭、そして10月の東海北陸地区高専ロボットコンテストの際のものです。お忙しい中、原稿や写真をお寄せ下さいました方々に対し、この場をお借りして心よりお礼を申し上げます。

（岸川記）